

平成28年度 特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

事業計画書（案）

当施設においても、利用者の重度化による疾病の悪化による受診や入院が増えている。高齢者および家族にとって入院治療が最善の選択かといえばそうではない。入院することで、ADLの低下やあらゆる機能の低下をきたし、介護依存度がより高くなって戻ってくる。本年度は、チームケアに力を入れ入院者数を減らすことを目的とする。

I. 他職種との連携チームケアをもって支援する

- ① 利用者に関わる全ての方々と連携をもって支援する。
- ② 利用者の情報の共通認識がうまく申し送られる。
- ③ 職員一人ひとりを知る。（長所、短所、得意、不得意）それぞれの意見を大切にす
る。

II. 看護師間の意志の統一化を図る

- ① 介護看護合同会議を1か月1回継続する。
- ② 入院回避にむけての議論をする。
- ③ 昨年度、総延べ入院日数615日にて稼働率97.5%に低下し、861万円の減収とな
った。今年度は、質の高いチームケアに力を入れ（口腔ケア等）入院回避にむけ
て取り組んでいきたい。
- ④ 医務室は様子を見るか、医師に指示を仰ぐか、家族様に連絡とるか等看護師の能
力が問われることが大きい。看護の専門性を高め、チームワークをもって働ける
職場を目指す。
- ⑤ 昨年度のターミナルケアでの看取りは2名であった。意向確認書では、最期まで
施設で過ごさせたいと考えておられる家族様がほとんどである。施設としての看
取りの指針に基づき、お互いが納得のいく看取りができるようサポートしてい
きたい。

III. 業務の簡素化、効率化を図る

- ① 朝礼後、看護師間で情報の共有化を図り、利用者全体の情報交換を行う。
- ② 受診は看護師の人数が少なくなると受診時間に行っている間が手薄になる。この
ことを説明し状況によっては家族様に受診付添いの理解協力を得られるよう
に努めていく。

IV. 面談にて意向を重視する

本人および家族様に十分に説明し意向確認する。利用者の現状、施設で可能な対応の範囲、今後おこりうること、入院によるメリット、デメリット等の説明し、家族様の意向を重んじ対応していく。今後本人家族様の意向を重視した方向性をとることで入院数の減少をはかり、その評価していく。

V. 職員の知識・技術の向上

施設内研修を行い知識やスキルの向上をはかっていく。年間スケジュールをもとに実施を行う。 4月バイタルサインの測定方法 5月基礎的な疾患に対する対応（熱発、下痢・嘔吐、便秘、脱水） 6月急変時の対応 7月感染症について 8月肺炎予防 9月褥瘡予防（ポジショニング） 10月誤嚥・窒息 11月尿路感染症 12月吐血・下血 1月意識障害 2月麻痺 3月胸痛・呼吸困難